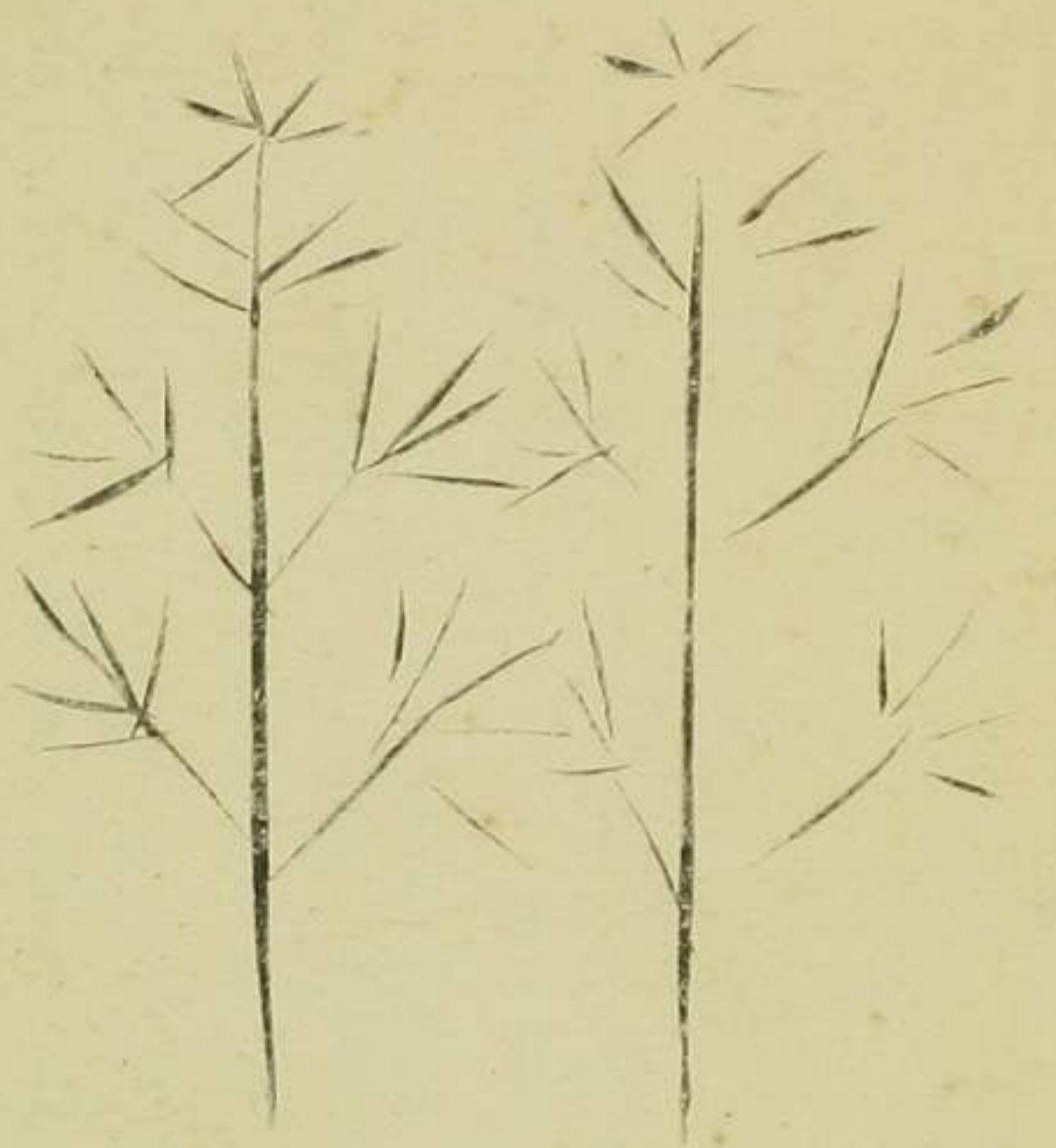


松葉落

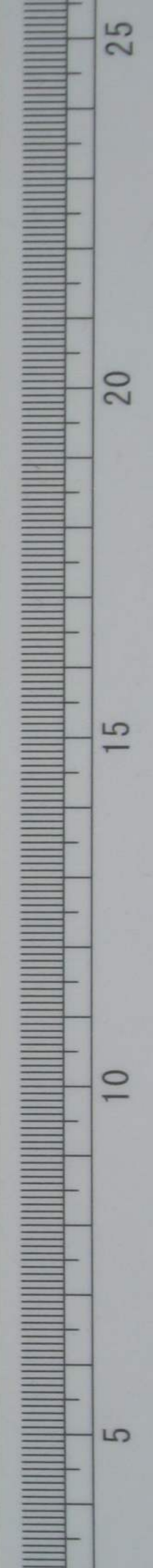
章 短



ト、レフンバ 秋 白

2

スルア 座銀京東 刊月八年二二九一





白秋パンフレット

第一輯 短唱 月光微韻 既刊

第二輯 短章 落葉松 既刊

第三輯 短章 初冬の星 既刊

第四輯 詩集 動き来るもの 九月刊

第五輯 民謡體  
短章 薄陽の旅 九月刊

第六輯 小唄 雀の頭巾 九月刊

定價各册參拾錢 送料貳錢

### 白秋パンフレットの言葉

この白秋パンフレットはわたし自身の詩歌、小品、評論、隨筆等、その種類の何たるを問はず、成るに従て隨時一々の小冊子として刊行するものである。たとへば一壺の甘藍若くは一題の林檎のごとく、新鮮に、而かも最も簡易に衆人の眼に觸れ手に觸れ心に觸れむことを希ふものである、わたくしは貧しかつた。それ故にかうした値廉きこの種の刊行はかねての本願であつた。で、わたくしは同時に童謡或は民謡の普及版をも順次に公刊する。ただ此のパンフレットは如上の二種の歌謡を除き、その他の創作、中にも主として新作を旨とするつもりである。なほ、未刊の著作、或は既刊の物でも極めて特殊な品として分冊の必要がある場合には、稀には輯録することもあるだらうと思ふ。而して世の富者には一方思ひきり贅を凝らした高價の珍蔵書として類別蒐集したい微笑をも許してほしく思ふ。

大正十一年夏

北原白秋

# 落葉松

短章

北原白秋著

白秋パンフレット第二輯

小序

落葉松について

落葉松の幽かなる、その風のこまかにさびしく物あはれなる、  
ただ心より心へと傳ふべし。また知らむ。その風はそのささやき  
は、また我が心の心のささやきなるを、讀者よ、これらは聲に出し  
て歌ふべきものはものにあらず、ただ韻ひびきを韻とし句を句とせよ。

白秋

目次

落葉松	八章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	一
寂心	六章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	七
わがうた	三章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	三
あそび	十三章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	五
月下の蓮		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	四
露		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	五
すずしき	二章	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	六
白芥子		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	六
盛		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	元

落葉松

一

からまつ  
 からまつの林を過ぎて、  
 からまつをしみじみと見き。  
 からまつはさびしかりけり。  
 たびゆくはさびしかりけり。

I

## 二

からまつの林を出でて、  
 からまつの林に入りぬ。  
 からまつの林に入りて、  
 また細く道はつづけり。

## 三

からまつの林の奥も

わが通る道はありけり。  
 霧雨のかかる道なり。  
 山風のかよふ道なり。

## 四

からまつの林の道は  
 われのみか、ひともかよひぬ。  
 誰びとも通る道なり、  
 しみじみといそぐ道なり。

## 五

からまつの林を過ぎて、  
 ゆるしらず歩みひそめつ。  
 からまつはさびしかりけり、  
 からまつとささやきにけり。

## 六

からまつの林を出でて、

浅間嶺にけぶり立つ見つ。  
 浅間嶺にけぶり立つ見つ。  
 からまつのまたそのうへに。

## 七

からまつの林の雨は  
 さびしけどいよしづけし。  
 かんこ鳥鳴けるのみなる。  
 からまつの濡るるのみなる。



世の中よ、あはれなりけり。  
 常なけどうれしかりけり。  
 山川に山がはの音、  
 からまつにからまつのかせ。

寂  
心

かぎりなきものを欲りして、  
 かぎりなきさびしさに來つ。  
 かぎりなきものを知りつつ、  
 かぎりなくなみだながる。

二

さびしさに常はすまひて、  
ただせめてさびしがれども、  
ほとほとにいまは堪へえね、  
百日紅あかく咲きたり。

三

日のうちは野ゆき山ゆき、

朝夕はひとり思へと、  
よきひとよ、よくぞ宣らしし、  
日のうちは野ゆき山ゆき。

四

草臥れて宿かる頃や藤の花

芭蕉

日のうちはあるきあるきて、  
やうやうに草臥れにけり。  
せめてただ今宵の宿に、  
われとわが足をさすらむ。

五

ある時はありのすさびに  
はかなごとおどけわらひぬ。  
時過ぎて堪へかねにけり、  
さびしさはきはまりにけり。

六

さびしさはきはまりにけり。

並び葉の青き松の葉  
松の葉の、よしや、番ひ葉、  
なほなほに觸つめたさ。

## わがうた

-

わがうたのふかきこころは  
 ほとほとに知る人ぞなき。  
 晝見えぬ星といふとも  
 つくづくと見れば光るを。

=

わがうたのふかきいのちは  
 ほとほとに知る人ぞなき。  
 苦つたふしづくなりとて  
 つくづくと見ればした滴るを。

≡

わがうたのふかきなげきは

ほとほとに知る人ぞなき。  
ゆきずりの息のあふれも  
さむき日は白うこごるを。

あそび

憂き我をさびしがらせよ閑古鳥  
芭蕉

—

あそびこそ尊とかりけれ。  
まことよく恍<sup>ほ</sup>れあそぶもの  
神ぞただ嘉したまはむ。  
まことにはあそぶ人なき。

## 二

身をあげてあそぶ童は  
 ひたむきに天もわすれぬ、  
 聲あげて恍れてあそびぬ、  
 その聲ぞ神のものなる。

## 三

いと高きころにあそぶ、

そのよどみ天にいたらむ。  
 あそびこそ尊とかりけれ、  
 よく遊べ、みほけのごと。

## 四

かうかうと遊ぶころを  
 まことには知る人ぞなき。  
 童のみ神のものなる。  
 神こそは童なるらめ。

## 五

生けらくは生きてあそべよ、  
さびしくばさびしがるまで、  
常なきを常なしとせよ。  
美しきうつくしとせよ。

## 六

唐黍の紅き垂毛たっけに

雀すずめらも恍ほれてあそびぬ。  
そよかせの吹けば吹かれて、  
チチとまたひるがへるなる。

## 七

貧しくてかつゑし時も  
貧しさと我はあそびき  
米なくてはかなき時も  
雀すずめ子と恍ほれて遊びき。

## 八

時として遊び得ずけり。  
 ただただにくるしかりけり。  
 さはあれど、また遊ぶなり。  
 ほれほれとくるしみにけり。

## 九

發電機ダイナモの恍惚ほしうなりも

うつつなく遊べばぞよき。  
 いみじくも妙なるしらべ、  
 命とる間さへ歌へり。

## 十

遊びつつ、まことあそべよ、  
 身も靈もあげて忘れよ。  
 遊びほれ、あそぶことすら、  
 はてはただ忘れわすれよ。



## 十一

あさはかにあそぶ人あり、  
 いやしけくあそぶ人あり、  
 遊びつつ物欲りにけり、  
 遊びつつあそばざりけり。

## 十二

御佛のとはのあそひは

ほとほとに盡くる期ぞなき。  
 さるからにかなしかるらむ、  
 ほとほとに堪へもかぬらむ。

## 十三

せめてただ、さみしく、高く、  
 われはただ遊びほけてむ。  
 遊びほけ、遊びわすれむ、  
 涅槃ニルヴァナのその真澄マコトまで。

## 月下の蓮

くれなるの蓮はすの花を  
 月の夜に見るがごとけむ。  
 常なしと人には見せて、  
 すやすやと我もねむりぬ。

## 露

草の葉に揺れるる露の  
 落ちんとし、いまだ落ちぬを、  
 落ちよとし、見つつ待ちゐて、  
 落ちにけり、驚きにけり。

## すずしさ

一

かざりなき花といふとも  
 すずしさは野に満ち満ちぬ。  
 一きれの青き漬菜も  
 我が噛めば身も冷えにけり。

二

蟬の子の翅のひびきも  
 さびしさは地に染み染みぬ。  
 一きれの紅き生薑も  
 わが噛めば身も冴えにけり。

## 白芥子

白芥子の蕾を裂きて、  
驚きて叫ぶ童よ、  
その花の白し白しと、  
驚けよ、鮮やかにまた。

## 螢

螢ひとつ叩き落しき。  
その螢地つちに光りき。  
こまごまと二つ光りき  
光り、光りき。

發行所

東京座  
尾張橋區

會社

ア  
ル  
ス

電話  
東京座  
二四八八  
八三番

有所權版

刷印日二十月八年一十正大  
行發日五十月八年一十正大

秋白原北者作著

者代表スルア社會業合

雄鐵原北者行發  
號五地新町秋馬座區橋京市京東

郎太源本山者刷印  
地番五十四町堅久區川石小市京東

子金木製

落  
葉  
松

定價參拾錢

白秋童謡普及版

白秋童謡普及版は、白秋氏の童謡に一流の畫家達が心をこめて描かれた美しい澤山の挿畫を毎頁ごとに、挿入していつでも手にとつて歌へるやう、手輕に、親しみやすく、しかも安價な本として、母さんたち、小供さんたちのために順次刊行いたすものです。

赤い鳥・小鳥	森田恒友氏畫
夢の小函	前川千帆氏畫
鳩の浮巢	木村莊八氏畫
お祭のころ	山本鼎氏畫
あはて床屋	小杉未醒氏畫

九月中發刊

菊版  
本文舶來紙二度刷

定價各輯參拾五錢  
送料貳錢

アルス詩歌集

	定價	送料
北原白秋氏著 詩集觀相の秋	1.80	.17
北原白秋氏著 白秋詩集第一卷	2.80	.17
北原白秋氏著 白秋詩集第二卷	2.80	.17
北原白秋氏著 抒情小詩 わすれなぐさ	1.80	.13
北原白秋氏著 白秋小唄集	1.80	.13
北原白秋氏著 民謡集日本の笛	2.80	.18
蒲原有明氏著 有明詩集	3.50	.23
三木露風氏著 象徴詩集	2.80	.18
三木露風氏著 抒情小詩 生と戀	1.80	.13
室生犀星氏著 室生犀星詩選	2.20	.17
日夏耿之介氏著 詩集黑衣聖母	2.50	.17
日夏耿之介氏著 詩集轉身の頌	2.50	.17
萩原朔太郎氏著 詩集月に吠える	2.50	.17
北原白秋氏編 第二木馬集	1.30	.15